

マスタープラン策定実習 課題 G 最終発表

住民のきもち班

班員：太田和志（班長）高祖侑希（副班長）小島秀仁 小林香渚  
齋藤創太 信賀春輝 橋村ちひろ 蓮沼舜矢 藤本遼太郎

1. はじめに

1.1 目的

我々住民のきもち班は、土浦市の小さなスケールの中で課題を考え、その課題を解決する提案をすることで土浦市の住民全体がより暮らしやすくなることを目的とする。インフラ整備などのハード面ではなく、住民のきもちに即したソフト面を中心に改善することを目指す。そして長期的には、商業活性化、防犯性の向上、ないしはコミュニティ、社交性といったものの創生にも繋がると考えられる。

1.2 実習の流れ

まず我々は住民の暮らしの現状や課題を把握するために、住民の生活を構成すると考えられる要素として防犯、商業、福祉、交通、景観の5つを取り上げた。

また、現状や課題を把握する際に土浦市全体で見てしまうと、土浦市を今後どのように発展させていくかという要素が強く反映され、住民の生活の視点が疎かにされてしまう危険性がある。そこでより住民に寄り添った提案をするため、これら5つの要素を中学校区単位ごとから着目して調べた。

次に市民満足度調査を参考に、土浦市の住民が自身の住んでいる校区に対してどのようなイメージを持っているかを把握した。さらに土浦市公式ホームページや国勢調査から各中学校区の人口構成と世帯構成を調べ、それぞれの中学校区の住環境の特色を抽出した。

次に繰り返し現地見学を行うことによって、各中学校区を、実際に肌で感じたことを踏まえて客観的に分析した。また、現地の人にインタビューをすることで資料からは読み取れない住民の生の声を聞くこともできた。これらの経験と文献調査から各要素と中学校区に対し客観的な優先度を付けた。

上記のデータをもとに各要素について中学校区ごとの課題を抽出し、土浦市として目指す姿ではなく、住民の視点から優先すべき提案の決定を行った。

2. 各参考データ

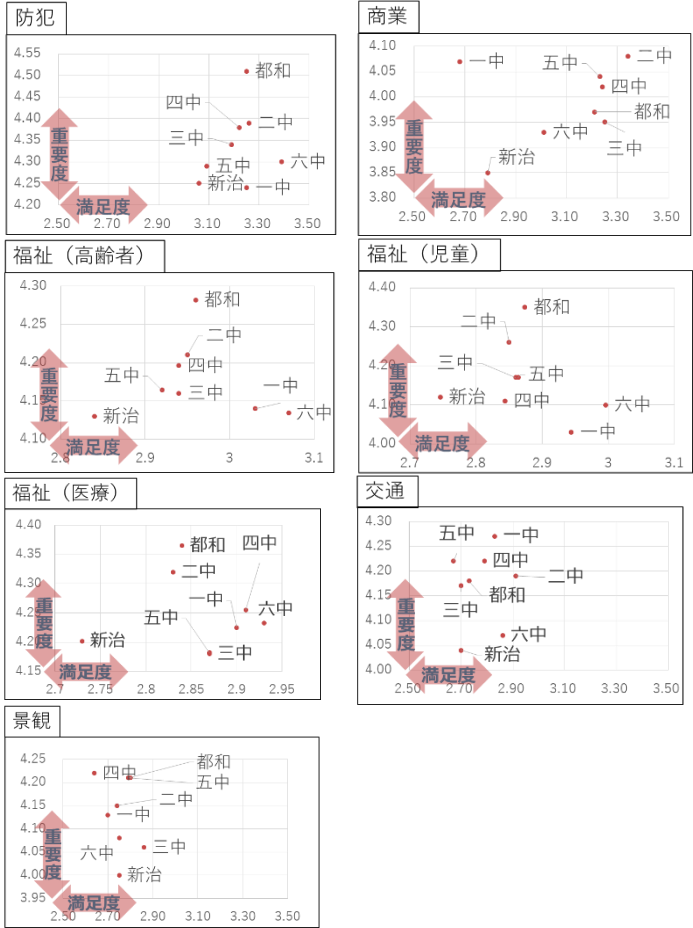
2.1 市民満足度調査

平成27年度市民満足度調査の質問項目を商業、福祉、交通、防犯、景観の各要素に振り分け、5つの要素について中学校区ごとに満足度、重要度の値の平均をとった。（表2-1）

満足度から各中学校区の住民が各要素について感じている現状を把握し、重要度から将来の必要性を把握した。

福祉に関しては質問項目の属性に大きな違いが見られたため、福祉の中でも高齢者、子育て、医療の3つの要素に分類し満足度、重要度の平均値をとった。

（図2-1）市民満足度調査の平均値（0≦平均値≦5）



2.2 各中学校区人口構成・世帯構成

・人口構成

土浦市公式ホームページの「中学校区別1歳ごとの人口」から各校区の人口比率の特徴を知るために、幼児（0～6歳）、学生（7～18歳）、生産年齢人口（19～65歳）、高齢者（66歳～）を抽出した。（表2-2-1）

（表2-2-1）各中学校区の項目別人口（人）

	一中	二中	三中	四中	五中	六中	都和	新治
幼児	1010	934	1427	1214	1162	1162	691	354
学生	1938	1734	2698	2681	2002	2002	1583	810
生産年齢	11897	9706	14668	14438	11226	9020	7421	4570
高齢者	5307	3758	7008	6383	3838	4774	3771	2680

・世帯構成

平成27年国勢調査の「小地域別一般世帯数」から、各

校区の世帯比率の特徴を知るために、単身世帯、児童のいる世帯（0～5歳、6～17歳）、高齢者世帯（65歳～）、夫婦世帯を抽出した。（表2-2-2）

（表2-2-2）各中学校区の項目別世帯数（世帯）

	一中	二中	三中	四中	五中	六中	都和	新治
単身	3377	3105	3140	3047	1946	1666	2197	476
児童1	684	645	916	797	562	474	445	228
児童2	1049	842	1373	1409	837	891	810	415
高齢者	3466	2492	4514	4081	1933	3072	2405	1656
夫婦	1737	1205	2229	2158	1004	1425	999	536

※児童1：0～5歳 児童2：6～17歳

2.3 我々の客観的優先度

文献調査で得られた知識をもとに各中学校区への現地見学を繰り返し行い、すべての要素の課題を中学校区ごとに洗いざらい書き出した。それらの課題をまとめる上で中学校区の優先度合いを選定した。

（表2-3-1）我々が策定した優先度合い

	一中	二中	三中	四中	五中	六中	都和	新治
防犯	高	高	高	低	高	高	高	低
商業	高	低	低	低	低	低	低	低
福祉	低	低	低	高	低	高	低	高
交通	低	低	高	低	高	高	低	高
景観	低	高	低	高	低	低	高	高

3. 項目別優先度

3.1 防犯

平成29年刑法犯総数から刑法犯総数の最も多い地域が二中地区であることが分かった。二中地区は教育機関を多く有し、文教的特性をもつ地区であるため児童などの通学者の安全に特に留意すべき地区である。一方で、市民満足度調査において二中地区の防犯の項目に対する満足度は高い値となっており、犯罪の多い二中地区においても、犯罪というものが身近に感じられてはいないという現状が見受けられる。すると更なる犯罪の増加や思わぬ犯罪の被害にあったりする危険性が高くなる。そこで市民の目線で防犯対策を行い、二中地区の刑法犯総数を少なくするとともに市民の防犯に対する意識を改善する必要がある。

3.2 商業

商業施設（スーパー、コンビニ、薬局、ホームセンター、百貨店）をプロットした図から、施設の見られないところのほとんどは山や畑であり、そこに住んでいる住民は少なく、また施設の少ない地域においても、現地調査により人口の多い住宅街からは歩いて行ける距離にあるため、これらを優先的に提案するのは得策でないといえる。

更なる深堀のため住民の声が集まった市民満足度調査を見ると、満足度、重要度から注目すべきは一中地区であることが分かった。また我々の策定した客観的優先度も商業の一中地区の優先度は高いという結果であった。他の校区に関しては満足度がすでに高かったため、商業については一中地区に焦点を当てることとした。

中間発表において、一中地区は東側と西側に分かれる

ことを指摘した。今回、一中地区の人口構成比としては、人口のほとんどが東側に住んでいるので東側に注目した。

一中地区の東側においては大和町1番の第一種特例区域による土浦市役所移転に伴い21店の商業テナントが新規出店したり、今年には新図書館がオープンしたりと中心市街地の再興が行われている。したがって東側における一中地区での商業の提案の優先度は低いのではないかという結論に至った。

3.3 福祉

まず我々は近年の各中学校区における高齢者の推移に注目し、すべての中学校区で高齢者が増加していること、そして高齢者の割合が20%以上であり、市全体が高齢社会という現状にあることが分かった。そのため我々は高齢者福祉に注目することにした。

次に土浦市の約100件の介護施設の定員を調べ、全中学校区で施設の受け入れ人数合計を把握し、要支援者、要介護者数に占める割合を算出した。

式	土浦市の介護施設の定員数
	要支援者・要介護者数

上記の式から要支援者、要介護者一人当たりの入居可能施設数が得られ、結果すべての校区で施設の受け入れ人数を超えていることが分かった。

以上のことから、高齢者福祉は全中学校区で同様の課題、背景を持つのではないかと思われる。したがって福祉は全中学校区に対応する提案をすべきであると考えられる。

（表3-3-1）介護施設定員と要支援、要介護者数

	一中	二中	三中	四中	五中	六中	都和	新治
定員総数	396	337	342	304	478	307	243	299
要支援、介護者数	838	510	913	835	523	557	461	426
定員に占める割合	0.47	0.66	0.37	0.36	0.91	0.55	0.53	0.7

3.4 交通

土浦市の公共交通は、常磐線の駅を中心に様々な路線が設定されているが、路線図を見ると新治中地区や一中地区西部の中に公共交通の少ない地域がある。だが、この地域は山間部であったり田畑が広がっていたりと住民が極めて少ない地域である。また、公共交通網が整っているように見える地域においても本数や運行時間が限られている場合があり、住民が満足しているのかを知るために市民満足度調査を見ることにした。

市民満足度調査の満足度や重要度を見ると、住民は五中地区の公共交通網の整備の必要性を感じているようであった。平成27年に行われた、土浦市地域公共交通網形成計画における住民の新規バス路線の開設希望調査では、土浦駅と協同病院を結ぶバス路線の新設を求める住民の声が多く見られた。五中地区には協同病院が平成28年3月に移転しており、該当地区にアクセスするためのバス路線が整備されていないという状況であった。だが、協同病院の移転に合わせ土浦駅～土浦協同病院線が整備されており、市民の要望が満たされているように思われる。

以上のことから、五中地区における公共交通網は十分に整備されているのではないかと考え、今回我々の班で



は交通を取り上げないことにした。

### 3.5 景観

まず住民が普段どのような景観の中で生活しているのか知るため、我々は現地見学を重ねた。住宅地や小中学校の周辺を歩いて見学した。雑草が生い茂っている場所や荒れた空き地等はどの地区にも存在し、地区ごとの優先順位を付け難かった。

そこで我々は市民満足度に注目した。景観の項目を見ると、四中地区の満足度が最も低く、また重要度が最も高いと分かった。さらに詳細に見てみると「湖や川をいれいにする対策」の満足度が特に低いということが分かった。四中地区には桜川という川が流れているため、市民満足度調査がこのような結果になっている原因は桜川ではないかと考えた。そこで、改めて桜川に調査に行ったところ、白鷺群生地など背の高い草木が生い茂り、場所によっては川が見えないところも存在した。

これらの情報をもとに景観では四中地区の、特に桜川沿いに対し提案をすべきとした。

## 4. 提案

### 4.1 防犯

二中地区の防犯で提案するのは、市民が防犯上問題となりうる場所を報告できるアプリ【つちパト】である。このアプリの特徴としては、一つのプラットフォームに街灯の少ない場所や落書きのある地点などを書き込めば、行政だけでなく、警察やNPOなどのパトロール団体、教育施設などにも同時に情報がいくという点である。これによって行政がより迅速に対処できるだけでなく、警察やパトロール団体がパトロールする場所を見直すことができ、教育施設も通学する児童などに注意喚起を呼びかけることができる。

防犯情報を配信するアプリやサービスは多くあるが、様々な機関に情報が行き、包括的に防犯対策を行っているという点が他のアプリとの違いとなっている。文教的特性を持つ二中地区において、通学者に直接的にプロジェクトの利益を還元するために、このアプリで収集したデータをもとに防犯マップを作成し、通学する児童などに配布するというのもプロジェクトの一環として提案する。

アプリ製作にかかる費用の見積もりを以下に示す。

（表 4-1-1）アプリの製作費用概要

項目	制作費用(円)
iOS・Android両方に対応	800,000
新規で会員データを取得	1,409,600
メールアドレスを使ったログイン機能の搭載	850,000
デザイン費	595,000
Googleマップの使用	425,000
カメラ機能の搭載	425,000
合計	4,504,600

本提案の効果としては以下があげられる。

- ① 調査にかかる費用を削減できる。
- ② 危険個所の重点的なパトロールにより犯罪抑止効果が期待できる。
- ③ 土浦市は青色防犯パトロールに使う車 1 台当たり 2

万円の助成金を出しているがパトロールの効率化により、必要となる青パトの数が抑えられ、費用の低減が期待できる。

- ④ 通学路の見直しにより児童など被害者になりうる人のリスクを低減できる。
- ⑤ アプリという形式にすることで若者にも継続的な利用を促す。

### 4.2 福祉

土浦市の地域包括ケアシステムである「ふれあいネットワーク」は高齢者ができるだけ住み慣れた地域に長い間暮らすことのできるように様々なサービスを充実させるシステムである。私たちはこのシステムの理念である住民の相互的な助け合いや支えあいに焦点を当てた。既存の高齢者施策の実績を見ると、総合相談支援事業の相談件数 1870 件・介護相談員派遣事業は 3432 件・心配事の相談事業は 210 件と相談窓口へのニーズが高いということが分かった。市民アンケートより相談体制の充実への期待が高いという結果や専門性の高い職員の確保が難しいという現状を踏まえ、住民同士で高齢者福祉に関する身近な問題を解決する方法が有効だと考えた。

そこで私たちは住民間での介護相談ネットワーク構築を提案し、【ささえ愛の輪】と名付けた。福祉施設を介して相談者が介護経験者である聞き手を見つけ、介護などに関する相談をできる環境を整えるシステムである。

流れとしては、まず相談する人・される人がこのネットワークに加入し、相談者が福祉施設を介して聞き手を見つける。そして二者が連絡を取り合い、交流サロンやカフェ、自宅など任意の場所で直接相談を行うという仕組みである。ゆくゆくは福祉施設の負担を減らし、地域の住民だけで身近な問題を解決しようとするものである。

費用に関しては、まず相談者一人当たりの料金制度を”介護保険料＋1200 円”とし、相談者一人当たりの報酬制度を基本給 850 円毎時間に評価に応じて 50～250 円加えることとした。その他の支出としては仲介手数料や広告宣伝費が挙げられる。この提案が厚生労働省の推進する地域支援事業に該当すると仮定すると、その中でも包括的支援事業あるいは任意事業にあたる。この場合、事業費に対して 19.5％を土浦市が負担することになる。

本提案の効果としては以下があげられる。

- ① 気軽に介護相談をできる環境が整うことで、住民同士で問題解決をするネットワークの形成が見込まれる
- ② 長い目で見ると福祉施設の負担軽減に結びつき、高度化するニーズへの対応の質を高めることができると考える。

### 4.3 景観

四中地区の景観で提案するのは、市民が桜川河川敷の除草作業及びゴミ拾いを行う事で土浦花火大会の観覧席をもらえるという【桜川&花火 W きれいキャンペーン】である。プロジェクトの特徴は毎月開催される清掃活動に 4 回以上参加すると土浦花火の観覧席が貰える点である。既に土浦花火には有料席が存在するが倍率は高く抽選により購入者が決められている。毎年約 80 万人が来場する土浦花火の観覧席は十分に価値があると考えられる。清掃参加者へ贈呈する観覧席は、初めに未整備の河川敷を業者へ剪定を依頼し、プロジェクトの清掃対象地とし

て維持管理することで確保する。清掃時間は、午前と午後で分け各活動時間を 3 時間に抑えた。また内容も一般男性は草刈り、高齢者や子供についてはゴミ拾い、刈り終えた草の運搬等役割分担する事で誰でも参加出来るよう配慮する。

政策にかかる費用の見積もりを以下に示す。

（表 4-3-1）政策の費用概要

項目	費用(円)
清掃用具、雑費	200,000
未整備地初期整備費用 業者委託料	2,370,000
合計	2,570,000

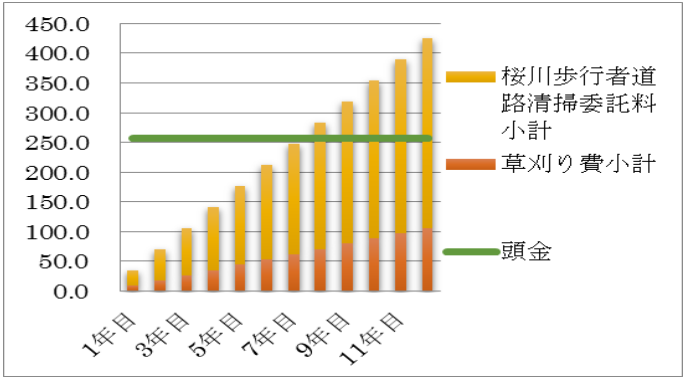
（表 4-3-2）予想削減費用概算

項目	費用(円)
草刈委託料(土浦花火大会観覧席)（毎年）	88, 000
桜川歩行者道路清掃費用（毎年）	266, 000
合計	354, 000

本提案の効果としては以下があげられ。

- ① 8 年目以降から収支がプラス（図 4-3-1）
- ② 観覧用敷地を事業で維持管理すると 1 回あたり参加人数:約 230 人、年間参加人数合計:約 5500 人となる。
- ③ 5 回以上参加する人はいないとすると最大座席獲得者数:1375 人の座席確保が可能となる。

（図 4-3-1）経年別事業収支の見通し



### 5.終わりに

我々は住民目線から様々な課題にアプローチしたというのがほかの班との大きな違いであったと考える。マスタープランはそこに住む人の生活をよりよくするための基準であるものなので、住民の目線から、住民の気持ちに寄り添った意見を出すことは必要不可欠であると考ええる。次の班ではハード面での意見も大事だが、我々の班はそれ以上にソフト面において住民目線での意見を大切にしてい、話し合いに参加していけるようにしていきたい。

### 6.参考文献

- ・土浦市 HP  
http://www.city.tsuchiura.lg.jp/index.html
- ・草刈り専門店きるかーる  
http://www.kirukaru.com/kirukaru-ryo.html
- ・Google Map

https://www.google.co.jp/maps

- ・いばらきデジタルマップ  
https://www.google.com/url?q=http://www2.wagmap.jp/ibaraki/map/map.asp%3Fdtp%3D20%26amp%3Bmpx%3D140.17350416666667%26amp%3Bmpy%3D36.081796632999996%26amp%3Bmst%3Dimgmap%26amp%3Bgprj%3D1%26amp%3Bbsw%3D923%26amp%3Bbsh%3D956&ust=1513362300000000&usg=AFQjCNExgqn1-C22aFBmj3t1n3EY8xbzRQ&hl=ja
- ・まち comi リサーチ「地域防犯」に関する意識調査  
http://machicomi.jp/research/report\_019/
- ・アプリ開発費見積もりシュミレーター  
http://mitsumori.creators-ship.com/
- ・空き家対策のために実態把握調査マニュアル  
https://www.pref.chiba.lg.jp/juutaku/seisaku/akiya/documents/jittaihaakutyousamanyuaru.pdf
- ・Sherman and Weiburd（1995）：  
GENERAL DETERRENT EFFECTS OF POLICE PATROL IN CRIME HOT SPOTS: A RANDOMIZED, CONTROLLED TRIAL 625 - 648  
http://cebcp.org/wp-content/onepagers/ShermanWeisburd1995.pdf
- ・ふれあいネットワークプラン

https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1432117393\_doc\_23\_0.pdf

【各施設詳細】

ライフサポートサンルーナ

/ここいち土浦/特別養護老人ホーム道の花の園/介護老人保健施設ひかり/グループホームきらめき 2/特別養護老人ホームなごみ/デイサービス樹楽土浦烏山/永国長寿館  
ここいち／永国特別養護老人ホームもりの家サテライト  
ケアパレス・ナヴァーレ/常総の郷/デイサービスしょうわ家族/しょうわ家族/特別養護老人ホーム憩いの里/山手医院/ガーデン/特別養護老人ホーム滝の園/特別養護老人ホームねもとの里/グループホーム和晃/土浦市老人福祉センター湖畔荘/やすらぎの園特別養護老人ホーム/社会福祉法人祥風会/グループホームきらめき/特別養護老人ホーム飛羽ノ園/サービス付き高齢者向け住宅アモール高津/まごころの家土浦上高津/かがやきの郷有料老人ホーム/サンライズヴィラ土浦/まごころの家土浦真鍋/デイホーム青葉/サービス付き高齢者向け住宅アモール神立/グループホーム寄居/老人保健施設さくら/グループホーム A S U K A /グループホーム鶴沼の里 2 /グループホーム鶴沼の里/特別養護老人ホームこほく/土浦マロン館/グループホーム太陽/土浦市老人福祉センターうらら/レジデンシャルケアコスモス